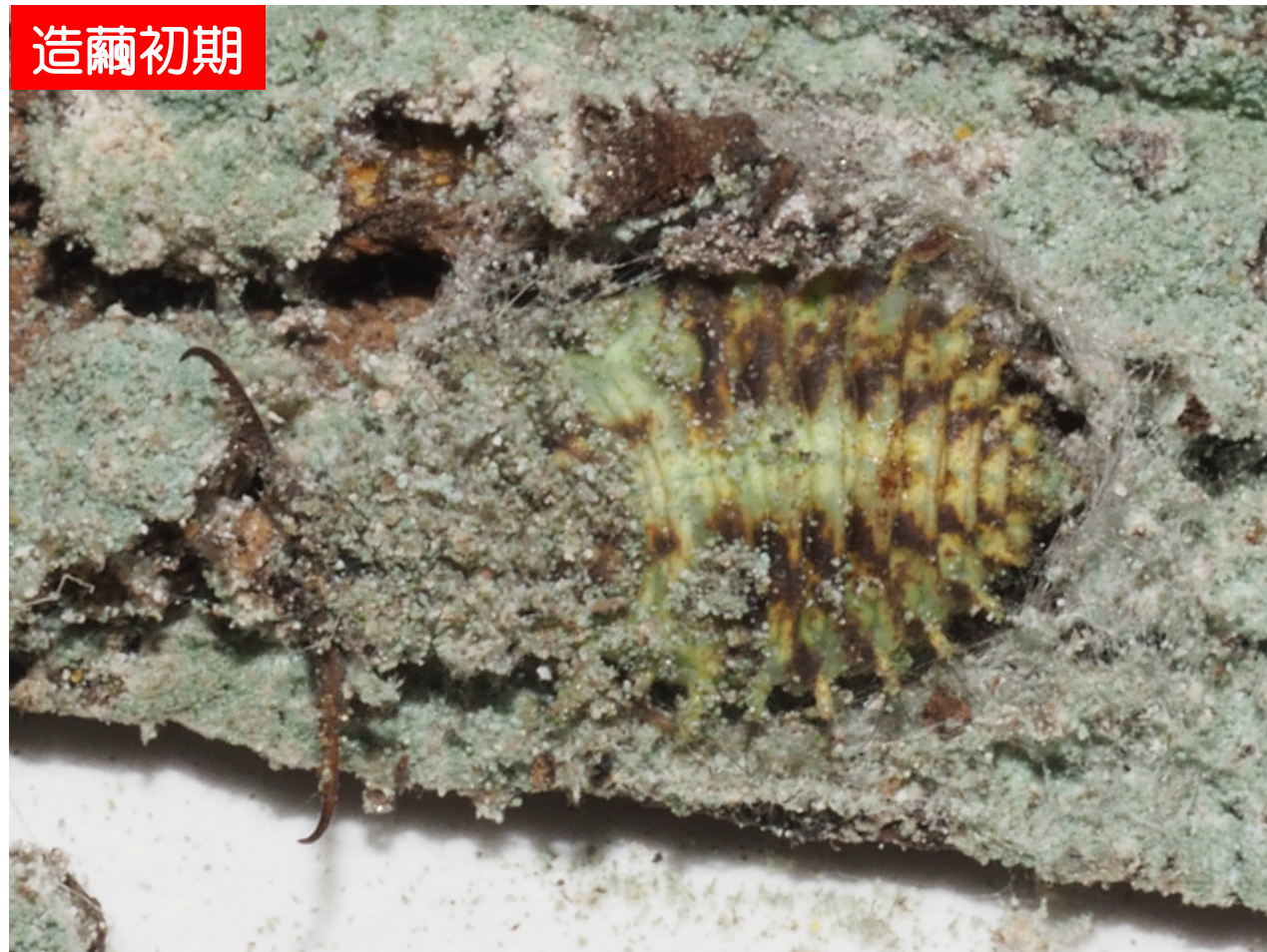


●コマダラウスバカゲロウの造繭

造繭初期

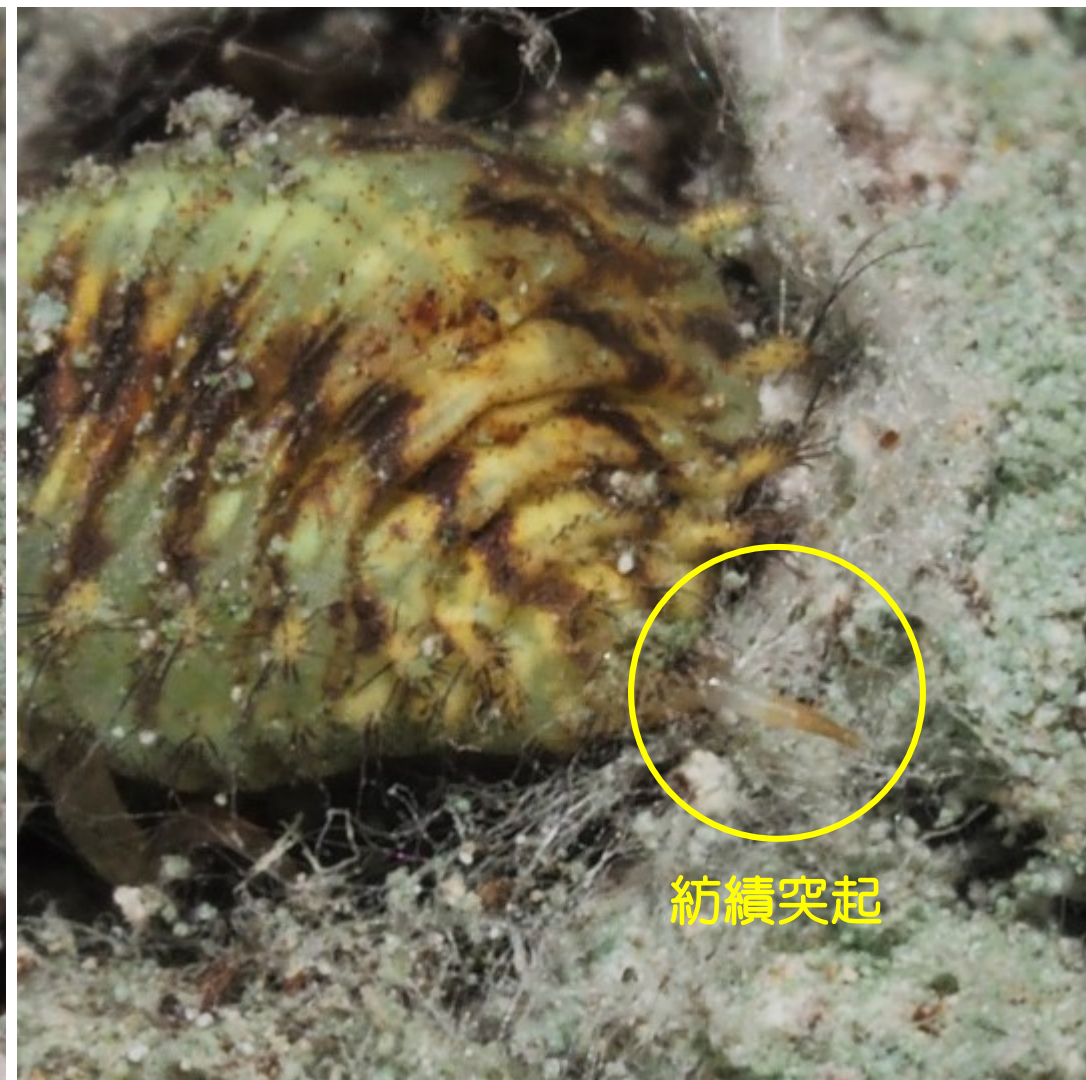


造繭後期



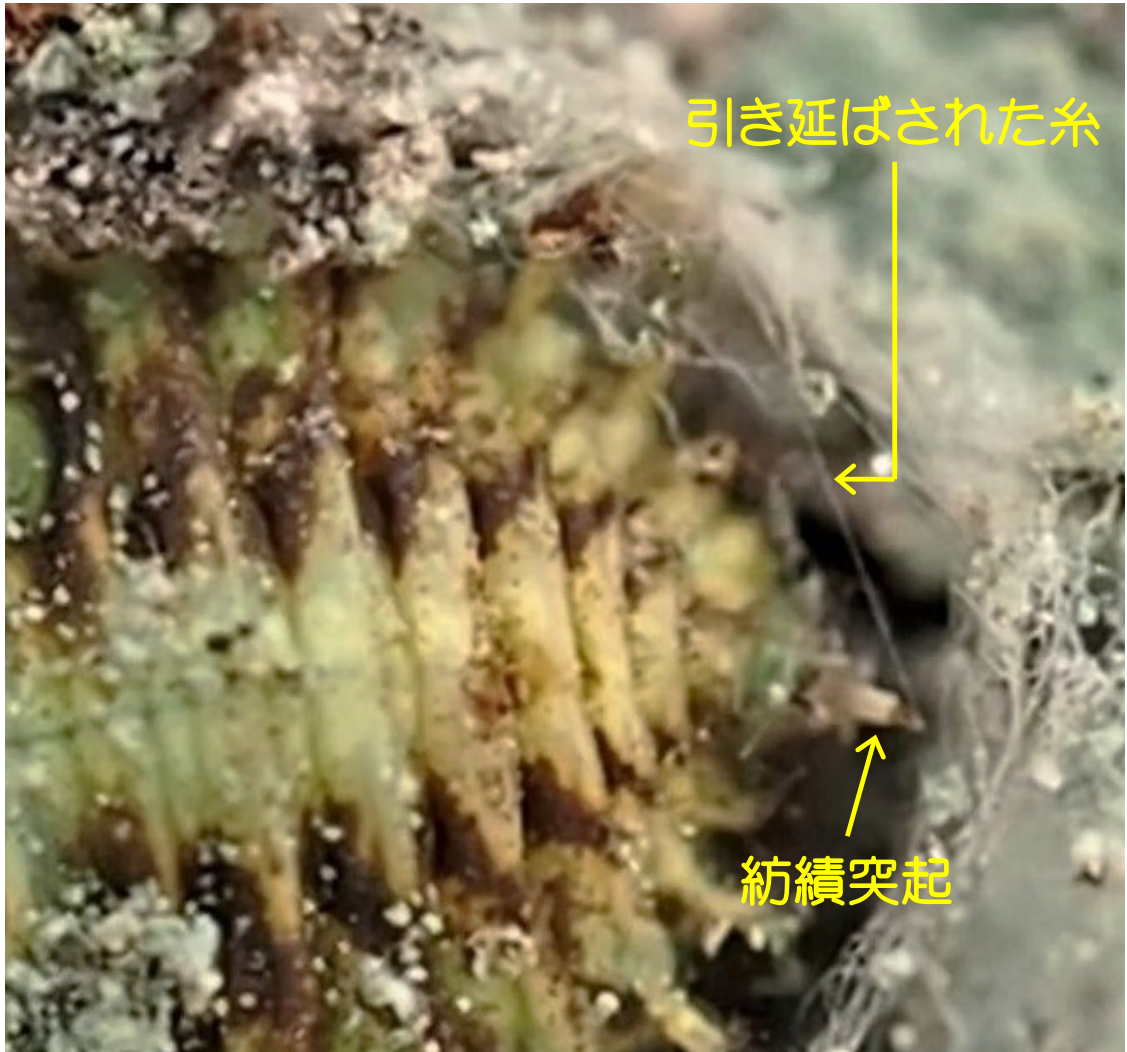
コマダラウスバカゲロウ (*Dendroleon jesoensis*) はマダラカゲロウ属のカゲロウの仲間で、幼虫は樹皮や岩石の表面に生えた地衣類の一種であるレプラゴケを体表にまとって周囲に溶け込む擬態を行います。シャーレを容器に飼育した所、造繭(蛹化)に成功しました。

●コマダラウスバカゲロウの紡績突起



コマダラウスバカゲロウは造繭に際して、尾部の紡績突起から糸を紡ぎ出します。紡績突起を既に紡ぎ出した糸と糸の間に縫い差しながら新たな糸を絡めて繭の壁面を形成していきます。

●コマダラウスバカゲロウの紡ぎ出す糸



コマダラウスバカゲロウが紡ぎ出す糸はマルピーギ管から紡績突起に送り出されます。糸は他の糸に付着させてから尾部を収縮させる事で引き延ばされます。この過程で糸の結晶化が急激に進行します(延伸)。

●コマダラウスバカゲロウの造巢の様子



コマダラウスバカゲロウの紡績突起から紡ぎ出された糸は互いに絡み合う事で線から面(布状)へと成形され、これが繭の壁面となります。この壁面を脚部で押しながら繭の形である球体へと整えます。ある程度形が出来ると自身を繭の中に納め、最後に球体の上部頂点を紡績突起から糸を紡ぎ出して塞ぎます。